

観 察 形

村田 明

キーワード：現在進行形、観察形、行為動詞、
状態動詞、ガ格要素

要旨

日本語には進行形という文法項目は無く、「～ている」で代表される観察形という文法項目がある。観察形を認めることによって英語現在進行形と「～ている」形の不对応、日本語における行為動詞と状態動詞の区別、久野(1973)で述べられているガ格目的語のより一般的な記述が可能になる。

0. 目 的

英文法項目「進行形」は、ある出来事がある時間に進行中であることを示す文法形式であると普通言われる。英語の現在進行形は、典型的には、「～ている」を使って日本語に訳される。

- (1) a. John sings well.
- b. John is singing well.

(1a,b)の典型的な日本語訳は(2a,b)のようなものになるであろう。

- (2) a. ジョンは歌がうまい。
- b. ジョンはうまく歌っている。

このことから「～ている」は、日本語における現在進行形を表す文法形式であると考えられる可能性がある。確かに、「～ている」は現在進行形を表す形式であるといえるかもしれないが、これが日本語文法項目の1形式であるかどうかは、「～ている」の用法をさらに調べる必要がある。本稿では、日本語には現在進行形という文法項目はなく、「～ている」はある種類の述語の観察形を表す形式であること、述語のとり観察形は、その述語の種類によって決まることを示し、観察形が日本語文法項目の1形式であることを主張する。¹⁾

1. 現在進行形と「～ている」の不对応

本節では、現在進行形でない英文が「～ている」を使って自然な日本語に訳せる場合と、英語の現在進行形が「～ている」を使って訳せない場合があることを示すことによって、「～ている」が現在進行形に決して対応していないことを主張する。なお、本節で引用した英文はその許容性判断も含めてすべてQuirk et al.(1985)からのものである。

状態動詞を進行形にすると許容できない英文になる場合が多いが、同じ動詞の単純現在時制英文は「～ている」を使って自然に訳せる。

- (3) a. We own a house in the country.
b. *We are owning a house in the country.
c. 私たちは田舎に家をもっている。
d. ? 私たちは田舎に家をもつ。²⁾

知的状態を表す動詞understand, know等も単純現在形が「～ている」に対応する。

- (4) a. I understand that the offer has been accepted.
b. *I am understanding that the offer has been accepted.
c. 私たちは申し出が受け入れられたと理解している。

(3),(4)は英語現在進行形ではなくて英語単純現在形が「～ている」に対応している例である。次の(5)で使われている動詞は状態的意味と動的意味の中間的な意味を表す。

- (5) a. James lives in Copenhagen.
b. James is living in Copenhagen.

(5a)は半永久的の住民であることを表し、(5b)は一時的の住民であることを表している。(5a,b)いずれの英文も「～ている」を使って(6)のように自然に訳せる。

- (6) ジェームズはコペンハーゲンに住んでいる。

つまり、英語現在進行形の「一時的状態」の意味が「～ている」によっては特定されない。

以下に、英語単純現在形が「～ている」を使って日本語に訳せる例と英語現在進行形が「～ている」を使わないで日本語に訳せる例を列挙する。

- (7) a. The box contains a necklace.
b. 箱にはネックレスが入っている。
(8) a. Jim resembles his sister.
b. ジムは妹に似ている。
(9) a. I can see the house.
b. 私にはその家が見えている。
(10) a. His statue stands in the city square.
b. 彼の像は広場に立っている。
(11) a. The train is arriving at platform 4.
b. 列車は4番ホームに到着する。

最後の例は、英語現在進行形が「～ている」に対応する形式ではないことが明らかであることをはっきりと示しているといえる。「～ている」を使った次の文は、英文法の用語を使って言うならば、進行形ではなくて完了形というべき意味を表しているように思われる。

- (12) 列車は4番ホームに到着している。

以上示した英語現在進行形、単純現在形と日本語「～ている」文との(非)対応関係から日本語「～ている」文が現在進行形を表す形式ではないことは明らかのように思われる。

2. 観 察 形

前節で、「～ている」は現在進行形を表す形式ではないことを示した。それでは、「～ている」は何を表す形式であると考えられるべきなのであろうか。本節では、「日本語には、すべての述語に対して、話者、上位動詞の主語、または文脈から推定される第3者（集団）等によって現在時において観察されている事象を表す形式が存在し、その形式を観察形と呼ぶ」という考えが正しいと仮定し、各下位節でいろいろな種類の述語の観察形を明らかにしていく。2.1節で、「～ている」形はある条件下での動詞のとり観察形であると主張する。

2. 1. 行為動詞と状態動詞

日本語文法では、一見ただけでは、動詞を行為動詞と状態動詞に分けることに、あまり意味があるようには思えないかもしれない。なぜならば、そのような動詞の意味的区別が動詞の形式の違いに反映されていないように思われるからである。たとえば、英語では状態動詞を進行形にすると文が許容できなくなったり、「一時的」という特別な意味特徴が現れたりするが、第1節で見たように、日本語では、状態動詞であろうが、行為動詞であろうが少数の例外を除いて、「～ている」が付くと現在における観察内容が表現されており、終止形は未来事象を表している。つまり、英文法的観点から見ると、日本語の動詞は、状態、行為の区別無くすべて行為を表しているように見える。しかしながら、観察形という観点から日本語動詞を考察して見ると日本語動詞にも英語に見られる状態動詞と行為動詞の区別が形式に反映されていることがわかる。

日本語他動詞の目的語をガ格にして観察形にした場合、動詞は「～ている」形ではなく「～である」形になる。³⁾

- (13) a. 太郎は花を飾っている。
b. 花が飾ってある。
c. *花が飾っている。

- (14) a. 戸があけてある。⁴⁾
b. *戸があけている。

ところが、英語の状態動詞に対応する日本語他動詞はその目的語を主語にして観察形を作ることができない。

- (15) a. I own a house in the country.
b. 田舎に家をもつ／所有している。
c. *田舎に家をもつ／所有してあ／いる。

- (16) a. ピタゴラスの定理を理解している。
b. *ピタゴラスの定理が理解してあ／いる。

日本語動詞の状態性、行為性による区別は、動詞の観察形を考えて初めて有意味なものとなるように思われる。行為性他動詞の目的語がガ格をとって観察対象となることができるのである。その際、行為性他動詞の観察形は「～ている」ではなく「～である」となる。

本稿では、ある日本語単語について、辞書に見出し語として掲載されている形をその単語の基本形と呼ぶ。「～ている」形が動詞基本形の観察形であるという主張の例外となる動詞について考えてみる。基本形がそのまま観察形になる動詞がある。

- (17) a. 今、1000円いる。
b. *今、1000円いっている。

(17)の「いる」は「必要」の意味だが、「いる」には「存在」を表す別動詞がある。存在を表す別動詞の「いる」の場合も、基本形がそのまま観察形として使われるが、「～ている」の変化形「～てる」が使われる場合もある。⁵⁾

- (18) a. 彼女がいる。
b. 彼女がいてる。

基本的には、動詞の「～ている」形がその動詞の観察形であるが、存在を表す「いる」が基本形のまま観察形として使えるということにより、動詞の「～ている」形がその動詞の観察形ではなくて「いる」の観察形になってしまうような動詞が存在する。「いく」と「くる」である。

- (18) a. 山へ行く。
b. 山へ行っている。

- (19) a. 松本にくる。
b. 松本にきている。

(18b)、(19b)は存在の「いる」が観察されている内容であり、「いく」、「くる」に関してはこれらの行為の完了が表されているというべきであろう。動詞「いく」、「くる」には観察形は無く、これらの行為の観察内容を表現するためには、たとえば「向かう」のような別動詞を使わなければならない。

- (20) a. 山へ向かっている。
b. こちらに向かっている。

能力を表す「できる」、や接尾辞の「れ／られる」なども基本形のまま観察形になる例外といえる。

- (21) a. 太郎が中国語ができる。
b. このパンが食べられる。

2. 2. 形容詞と名詞

実は、日本語形容詞基本形⁶⁾は、動詞基本形とは異なり、観察形そのものである。日本語形容詞は名詞を修飾するときの形にしたがって、イ形容詞、ナ形容詞と呼ばれるが、ナ形容詞基本形は、形容詞ではなくて抽象的概念を表す名詞である。⁷⁾ ナ形容詞の観察形は「～だ」である。⁸⁾

- (22) a. 太郎がやさしい。
b. 夏休みが近い。

c. 山がきれいだ.

d. 結末が劇的だ.

ナ形容詞の観察形は基本形に「だ」のついた形であり、名詞に「だ」がついていると考えられる。述語として使われる名詞の観察形もナ形容詞と同様、「～だ」の形になる。

(23) a. 太郎が病気だ.

b. この家が留守だ.

3. 観察形の用法

観察形は現時点で起こっている出来事や、生じている状態を表現する日本語文法形式であるが、現時点とはどの時点であるのか、観察者が誰であるのかということが文型とかわりをもっている。

3. 1 単純文（「観察者＝話者」文）

単文では、現時点は発話時であり、観察者は話者といえるであろう。

(24) a. 太郎が走っている.

b. 太郎が花を飾っている.

c. 花が飾ってある.

d. 太郎が花子を愛している.

e. 太郎がやさしい.

f. 太郎がまじめだ.

g. 太郎が病気だ.

これらは、話者が今現在観察している内容を述べている文である。このような単純文（「観察者＝話者」文）では、述語が観察形であるか否かは、述語の種類と文末述語の形に依存して決まる。(24)では、文末述語がその述語の種類に応じた観察形をとっているので、すべてが観察形を表す文である。

(25) a. 太郎がやさしくてまじめだ.

b. 太郎がやさしくてまじめだった.

c. 太郎がやさしくて花子を愛している.

d. 太郎がやさしくて花子を愛した.

形容詞テ形に別の述語が続く場合は、その形容詞はテ形であるがゆえに観察形とはいえないが、文末述語が観察形であると、その形容詞も観察形と同じ働きをする。(25a,c)では、文末述語が観察形であるので「やさしくて」も観察形の「発話時点での観察対象の状態を表す」働きをしている。同じ「やさしくて」が、(25b,d)では、文末述語が観察形ではないので、観察形の働きをしていない。

2個以上の動詞それぞれに観察形の働きをさせるためには、形容詞の場合のようなテ形でつなぐのではなく、「～たり～たりしている」、「～ながら～ている」のような表現にな

る。⁹⁾

- (26) a. ラジオを聞きながら勉強している。
b. 走ったり泳いだりしている。

日本語ではいろいろな婉曲述語が文末にくることが多い。観察形の後に婉曲述語がつづく場合も、観察形が文末にきていないのであるが、観察内容を表す文であるといってもよいであろう。¹⁰⁾

- (27) a. 太郎が走っていると思う。
b. 太郎が走っているだろう。
c. 太郎が花子を愛していると思う。
d. 太郎が花子を愛しているだろう。
e. 太郎がやさしいと思う。
f. 太郎がやさしいだろう。

3. 2 複雑文（「観察者≠話者」文）

3.1節で、単純文の文末に婉曲述語がついている場合を挙げたが、この婉曲述語を観察形にすることもできる。

- (28) a. (私が、) 太郎が花子を愛していると思う。
b. (私が、) 太郎が花子を愛していると思っている。

(28)においては、「愛する」と「思う」の両方の事態が話者によって観察されている。¹¹⁾ このように、話者自信が観察者である場合には2個の述語の内の文末述語を観察形にしてもしなくても、ほぼ同様に観察内容を表現できる。

観察者が話者以外の者の場合はどうであろうか。

- (29) a. 次郎が、太郎が花子を愛していると思っている。
b. ?*次郎が、太郎が花子を愛していると思う。

(29)では、「愛している」の観察者は次郎であり、「思う」の事態は次郎が引き起こして、話者が観察している。述語によって観察者が異なるので、両方の述語を観察形にしないと観察内容を表現できない。(28a)が自然で、(29b)がぎこちない言い方であるという事実は、観察形という考え方を採用して初めて自然な説明を与えられるように思う。

もちろん、「思う」のほうを観察内容ではなく、未来あるいは推量の内容または過去の事態にすることはできる。

- (30) a. 次郎は、太郎が花子を愛していると思うだろう。
b. 次郎は、太郎が花子を愛していると思った。

(30a,b)の「愛している」の観察時点は、それぞれ、未来、過去である。¹²⁾

4. ガ格目的語

2.1節で、行為他動詞の目的語がガ格をとって観察の対象となると述べた。本節では久

野(1973: 4章)で述べられていることが観察形と深くかかわっていることを明らかにする。4.1節で、久野(1973)で述べられていることを(A)~(C)にまとめ、4.2節で、ガ格目的語は観察形の観察対象になる語であると主張する。

4. 1. 久野(1973)¹³⁾

(A)

- (31) a. 私は英語が話せる。
b. 私はお金が欲しい。
c. 私はメアリーが好きだ。
d. 私は映画が好きだ。
e. 僕が日本語が苦手だ。
f. 僕はメアリーが怖い。
g. 僕は映画が／をみたい。

久野(1973)は(31)の例文の下線部要素はガ格目的語であると述べて、例えば(32)のような2重主語構文のガ格要素とは異なると述べている。

(32) 文明国が男性の平均寿命が短い。

ガ格目的語と2重主語ガ格の違いは2つある。1つは、ガ格目的語文の主語を省略すると、省略文になるが、2重主語ガ格の第1主語を省略しても省略文にはならないということである。

- (33) a. お金が欲しい。
b. 男性の平均寿命が短い。

(33a)には主語省略があるが、(33b)にはそのような省略が感じられない。

2つ目の違いは、2重主語ガ格文の場合は単一主語ガ格文への変更が可能であるが、ガ各目的語文の場合はそのような変更ができないということである。

- (34) a. 文明国の男性の平均寿命が短い。
b. *私の／にお金が欲しい。

(B)

ガ格目的語をとるのは「欲しい」、「好きだ」、「怖い」のような状態を表す述語である。

(C)

- (35) a. 僕はお金が欲しい。
b. ?ジョンはお金が欲しい。¹⁴⁾

「欲しい」は主語の内面感情を表現する述語なので、1人称主語のときは自然であるが、話者が自分以外の人の内面感情を断定的に述べることは不自然であるという理由で、(35b)は不自然な文である。

4. 2. 観察形におけるガ格要素

本下位節での主張点は次の3つである。

- I. 文を観察形にした場合に観察対象になる要素が、ガ格をとる。¹⁵⁾
- II. 行為性他動詞の目的語は「～てある」観察形でガ格をとって観察対象になることができるが、それ以外の環境では他動詞の目的語は観察対象にはなれない。¹⁶⁾
- III. 観察形が例外的である動詞はガ格要素に関しても個癖的な振り舞いをみせる。¹⁷⁾ 前下位節の例文(31)はすべて観察形であり、下線部ガ格要素は観察対象になっている。本稿と久野(1973)の主張の違いは、後者では、ガ格が主語ガ格と目的語ガ格の2つの異なる機能を持つ要素であるという風に2つの異なるガ格を考えているのに対し、前者では、主語であろうと目的語であろうと観察対象になる要素はガ格で表現されるという風にガ格を一般化している点にある。したがって、(33),(34)で示されている主語ガ格と目的語ガ格の違いは、本稿の立場では、ガ格の性質の違いによるものではなくて、主語と目的語の性質の違いによるものであると説明される。つまり、主語が省略された文は省略文としての感じがでるであろうし、主語と目的語を「の／に」でつなぐことはできないという至極当然の日本語文法項目で説明される。

主張の第II点は久野(1973)の主張(B)と完全に対立している。後者は状態性他動詞がガ格目的語をとると、前者は行為性他動詞がガ格の観察要素をとれると主張している。前者の主張の根拠は次の観察形に見られるガ格要素である。

- (36) a. 花が飾ってある。
b. 戸があけてある。

(36)に見られるガ格要素は目的語ではなくて主語であるという、主張IIに対する反論がなされるかもしれない。しかし、次に示す例を見ると、(36)に見られるガ格要素が主語であると何の疑念もなしに主張することはできないように思える。

- (37) a. 花を飾ってある。
b. 戸を開けてある。
c. 太郎は宿題がしてある。

(37a,b)の「花」、「戸」は目的語要素であろう。確かに、(36a,b)に動作主要素を主語として加えることはできないから、「花が」、「戸が」を主語と考えたくなる。

- (38) a. *太郎は花が飾ってある。
b. *太郎は戸が開けてある。

しかし、(38a,b)の非文法性は明らかな目的語を持つ(37a,b)にも生じる。

- (39) a. *太郎は花を飾ってある。
b. *太郎は戸を開けてある。

以上の観察と(37c)が適格な文であるということも加えて、(38)の非文法性は「花が」、「戸が」が主語であるから生じているのでは無く、この構文の別の特異な性格から生じているものであると考えるべきであろう。

(36)の「花が」、「戸が」がたとえ目的語であるとしても、「～てある」形が状態を表す述語であるから(36)は主張(B)の反例にはならない、と反論されるかもしれない。しかしそれではなぜ、(40)のような言い方ができないのであろうか。

- (40) a. *ピタゴラスの定理が知ってある。
b. *田舎に家がもってある。

「～てある」形が状態述語であるなら、(40)のガ格目的語が許容されるはずであるのに、事実はそうではない。(36)と(40)の違いは、「飾る」、「開ける」は行為動詞であり、「知る」、「もつ」は状態動詞であるという点にあり、(36)と(40)の文法性の違いは主張Ⅱによって自然な説明ができる。

久野(1973)は(41)のような例に基づいて、「知る」は行為動詞、「わかる」は状態動詞と主張している。

- (41) a. *日本語が知る。
b. 日本語がわかる。

筆者は、「知る」と「わかる」の間に行為性と状態性の相反する性質を感じ取ることはできない。「知る」は「～ている」形にすることによって観察形になるが、「わかる」は「～ている」形でも基本形でも観察形として使える例外的な動詞である。

- (42) a. ジョンは日本語を知る。
b. ジョンは日本語を知っている。
c. ジョンは日本語がわかる。
d. ジョンは日本語がわかっている。

(42)において、aとbの間には発話時点における観察内容に明らかに違いがあるが、cとdの間には発話時点における観察内容にほとんど差は無い。このように、観察形に関して例外的振る舞いを示す動詞はガ格目的語の可能性に関しても例外的であるというのが主張Ⅲである。

主張(C)の内面感情を表す述語を1人称以外の主語とともに使うと許容性が落ちるという意見には同意する。

- (43) a. 僕はお金が欲しい。
b. ?ジョンはお金が欲しい。

1人称以外の主語のときに内面感情を表す述語を客観性を帯びる観察形で表現すると、許容性が落ちるのである。このような場合には、観察者を喚起する述語を使うことによって許容性を回復することができる。

- (44) a. ジョンはお金が欲しいと思っている。
b. ジョンはお金が欲しいんだよ。

「～と思っている」、「～だよ」のような1種の婉曲要素を文末につけることによって、観察者が話者であることを喚起し、観察形の客観性を補強しているのである。

久野(1973)では、「欲しい」は状態述語であり、「欲しがる」は行為述語であると考え

ことによって、次の2文の文法性の違いを説明している。

- (45) a. お金が欲しい。
b. *お金が欲しが(っ)る。

本稿では、「欲しい」も「欲しが(っ)る」も同じ状態述語であると考え、(45b)が非文法的であるのは、「欲しが(っ)る」は状態動詞であるので主張IIによってガ格目的語がとれないからである。「～がる」は(43a)の「欲しい」とは逆に、1人称主語以外の主語の内面感情を表現する状態動詞派生要素である。

- (46) a. ジョンがお金を欲しがっている。
b. ?僕がお金を欲しがっている。

(46b)の許容性の低さは(43b)の許容性の低さに対応している。このことが「欲しい」も「欲しが(っ)る」も同じ状態述語であることの傍証となるであろう。

5. 結 論

日本語には進行形という文法項目は無く、英語現在進行形を訳す際によく使われる「～ている」形は観察形である。観察形を認めることによって英語現在進行形と「～ている」形の不对応、日本語における行為動詞と状態動詞の区別、複雑文における文末要素の振り舞い、ガ格要素の一般化などが可能になる。

注

- 1) 本稿では現在文だけを扱い、過去進行形や「～ていた」についての考察は行わない。
- 2) (3d)は未来文としてはokだが、(3a)の訳としては許容性は低い。
- 3) 「～てある」は、受身形「～られてある」が変化したものと考えられるかもしれない。
 - i) ?花が飾られてある。
 - ii) *花を飾られてある。
 - iii) 花を飾ってある。したがって、「～てある」形は受身ではないと考えられる。
- 4) i) 戸があいている。
この文は自動詞文である。自動詞文の観察形は「～ている」形をとる。
- 5) 口語では「～ている」はしばしば「～てる」になる。
 - i) a. 走っている。
 - b. 走ってる。
- 6) 基本形とは辞書に掲載されている形のことである。
- 7) ナ形容詞基本形の例
 - i) きれい、さわやか、明らか、まじめ、・・・・

ナ形容詞の連体形語尾「な」は派生語尾としても働き、抽象名詞からだけでなく具象名詞からも形容

詞を作る働きをもっている。しかし、具象名詞からナ形容詞を作るときは、「的」、「のよう」といった抽象名詞を派生する形式名詞をつけなければならない。

ii) 日本人 *日本人な 日本人的な 日本人のような
 劇 *劇な 劇的な 劇のような

8) 本稿で引用する日本語例文の文体はすべて普通体に統一する。以下に、観察形の3文体の対応表現を示す。

基本形	観察形普通体	観察形文章体	観察形丁寧体
走る	走っている	走っている	走っています
飾る	飾っている	飾っている	飾っています
飾る (対象主語)	飾ってある	飾ってある	飾ってあります
いる (必要)	いる	いる	いります
いる (存在)	いる/いてる	いる	います
やさしい	やさしい	やさしい	やさしいです
きれい	きれいだ	きれいである	きれいです

9) i) 走って汗を流している。

この文では、「走る」と「流す」の2個の動詞の観察形が問題になっているのではなくて、「走って汗を流す」という行為全体が観察形で表現されているのである。

1 0) 「～と思う」や「～だろう」で終わっている文を観察形と呼ぶことには抵抗があるかもしれない。観察形といっても、これは文法形式の問題であって、厳密な意味での科学的観察が問題になっているのではない。観察されたことを強い断定的口調を避けて述べることもあるであろう。

1 1) 「思う」のほうは、話者自信が引き起こしている事態を話者自信が観察しているのである。

1 2) 観察時点が発話時以外の場合については、今回の論考では詳しくは扱わない。

1 3) 久野(1973)に引用されている例の多くは丁寧体である。本稿は例を普通体に統一しているので、本節の久野(1973)からの例は丁寧体を普通体に変えてある。

1 4) 久野(1973)では、(35b)は完全に許容できないとして*がついているが、筆者にはそんなに不自然な文とは感じられない。例えば、次の例と比較すれば(35b)の方がはるかに許容できる。

i) *ジョンはお金が欲する。

しかし、久野(1973)が言うように、(35a)と比較すると(35b)は確かに少しぎこちない文である。

1 5) 主張Iは、観察形でガ格をとる(ことのできる)要素は、タ形、ダロウ形のような観察形でない形でもガ格をとれることを含意している。

1 6) (13)(14)(15)(16)参照。

1 7) (21)参照。

参考文献

久野 (1973) *The Structure of the Japanese Language*, MIT Press.

Quirk, R., et al.(1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman.

